

患者さんのために 車を利用して下さい！



車の鍵を受け取る平尾所長



若林クリニック

患者さんのために福祉車両を使って下さい！ 11月25日、若林クリニック（平尾良親所長）で、福祉車両の贈呈式が行われました。地域の患者さんのために役立てて下さいと車（ポルテ）を寄贈して下さいしたのはフクダ電子株式会社。贈呈式にはフクダ電子側から玄地一男代表取締役専務ほか5人、若林クリニックからは平尾所長や佐藤直志厚生協会常務らが参加しました。

若林クリニックは、震災で建物自体に大きな被害は出なかったものの津波が押し寄せ、友の会会員さん11人が亡くなり、50世帯を超える会員さん宅が流失したり、転居を余儀なくされるという甚大な被害を受けた地域です。

車にはボタン一つで助手席が外に飛び出す機能が備わっていて（写真の座席）、デイサービスの利用者さんが早速試乗していましたが「これからこの新しい車が使えるんだ」と、大好評でした。

加藤隆雄事務長は「車を寄贈して頂き大変感謝しています。デイサービスで利用させていただきますが、とても便利な機能が付いていて、利用者さんも喜ぶと思います。」と話していました。



東日本大震災で被災した鉄道沿線を支援しようと、JR陸羽東線の小牛田-新庄間を11月26、27日、「SL湯けむり復興号」が走った。（27日 池月～川渡温泉間で）

新しい遊具で子どもたちは元気に遊んでいます



新品のジャングルジムで遊ぶ子どもたち

10月17日、東松島市の小野保育所（後藤誓子所長・園児79人）で、新品のジャングルジム等が完成しました。同保育所は3.11の地震による津波で建物が全壊、遊具も使えなくなりました。保育所の子どもたちを診察していた玉橋征子医師（坂総合病院）のスイスの友人が、バザーで集めてくれた義援金で、ジャングルジム、鉄棒、ベビーバスユニットなどを購入したものです。

後藤所長は、「新しい遊具で子どもたちは元気に遊んでいます。多くの人たちのご支援にとっても感謝しております。」と話してくれました。保育園を訪れた11月28日、子どもたちは12月の“おゆうぎ会”本番に向け、一生懸命歌や踊りの練習していました。



“おゆうぎ会”に向けてリハーサル



舞台の踊りを一緒に